

平原直 略年譜

明治35年(1902)	0歳	3月 佐賀県杵島郡中通村三間坂(現・佐賀県武雄市)に生まれる(14日)。
明治39年(1906)	4歳	9月 一家で朝鮮・平壤に移住。
大正 4年(1915)	13歳	3月 平壤公立尋常小学校卒業。 4月 佐賀県立鹿島中学校入学。
大正 7年(1918)	16歳	4月 朝鮮総督府立平壤中学校に転校。
大正 9年(1920)	18歳	4月 長崎高等商業学校入学。
大正12年(1923)	21歳	3月 朝鮮総督府立平壤中学校嘱託、6月に教諭となる(英語担当)。
大正15年(1926)	24歳	4月 九州帝国大学法文学部入学。学業の傍ら博多の鶴城高等女学校で教える。
昭和 2年(1927)	25歳	夏 高等文官試験受験のための過労がたたき、肺患により咯血。
昭和 4年(1929)	27歳	4月 国際通運(株)入社。希望により自動車部へ配属。 12月 盲腸炎の手術から宿病を得る。
昭和 5年(1930)	28歳	1月 月刊『運輸』に「自動車業経営合理化の基準」を連載(1~12月)。 6月 東京市内の4駅(貨物駅)のホームの積卸作業・市内集配作業の実態調査を行う。 10月 「東京市内四駅貨物集配作業調査報告書」を会社に提出。 12月 「東京市内小口扱貨物集配組織及方法改善案」を会社に提出。
昭和 6年(1931)	29歳	10月 甲種自動車運転免許取得。
昭和 7年(1932)	30歳	1月 月刊『運輸』に「トレーラー及びセミトレーラーに就て」連載(1~7月)。 5月 東京合同運送(株)へ出向(16年10月まで)。汐留駅勤務。
昭和 8年(1933)	31歳	4月 天野良子と結婚(3日)。
昭和14年(1939)	37歳	7月 満州国・大連・朝鮮へトレーラー研究のため出張。
昭和15年(1940)	38歳	7月 この頃より民間初のセミ・トレーラーの試験運用・実用化。
昭和16年(1941)	39歳	11月 出向先の汐留駅から異動、日本通運(株)東京支社へ戻る。 この年、経営学者・上野陽一の自宅を訪ね教を乞う。
昭和17年(1942)	40歳	6月 品川区鮫洲に「自動車要員錬成所」設立(5日)。
昭和18年(1943)	41歳	4月 トレーラー研究のため朝鮮へ渡航。 10月 平原の提案により小運送総力研究所設置、研究員となる。
昭和19年(1944)	42歳	1月 「小運送ノ多量生産方式実現ヘノ一環トシテセミ・トレーラーノ本格的拡充ニヨル小運送能力増強案」を執筆、日通の幹部に提出。 3月 日通新宮支店を視察、高本亀太郎と出会う(31日)。 上半期、老休車廃材を利用しての戦時型車両の試作研究に費やす。
昭和20年(1945)	43歳	8月 「玉音放送」を聞き敗戦を知る(15日)。
昭和21年(1946)	44歳	2月 「小運送科学化方策に関する所見」を日通上層部に提出(5日付)。 4月 部長待遇の調査役から無役の係長クラスに降格。6月、辞表を提出。 9月 静岡県・韮山の飼料工場を経営(昭和25年12月頃まで)。
昭和23年(1948)	46歳	10月 通運荷役研究所を日通本社内に設立(1日)。
昭和24年(1949)	47歳	2月~日通の委託を受け、関西・四国・九州・北海道まで荷役現場を全国行脚。 3月 神戸港中央突堤でペブシコーラのパレチゼーション作業を実見(初旬)。 6月 『機械荷役』第1号発刊。 6月 大阪の日通・天王寺支店の米軍払い下げのフォークリフトを新宮支店の高本亀太郎に紹介。新宮支店でパレチゼーションの実地研究始まる(昭和26年末に完成)。 10月 『日本小運送とその機械化』出版
昭和25年(1950)	48歳	4月 『機械荷役』、誌名を『荷役と機械』に変更、月刊となる。 この頃、コダックの中古16mmカメラを入手。
昭和27年(1952)	50歳	9月 『荷役と機械』8・9月合併号に、「パレットの標準規格問題」発表。 10月 新宮駅でのパレチゼーション作業を実見。 12月 通運荷役研究所一時閉鎖。
昭和28年(1953)	51歳	この頃から平原と高本は主に近畿・中国・九州・四国の国鉄の現場職員の前で講演。
昭和29年(1954)	52歳	9月 『荷役現場を守る人々』出版。11月に出版記念会。 11月 「荷役研究所」として再開、『荷役と機械』復刊。

昭和31年(1956)	54歳	4月 スtockホルムで開催の原水爆禁止世界大会に日本代表の一員として出席。その後、モスクワ・北京を経て平壤を訪問(4~6月)。
		5月 国鉄本社に貨物設備近代化委員会設置。伊沢道雄、内山九万とともに平原、高本委員となる(29日)。
		7月 国鉄・大阪鉄道管理局に近代化委員会設置、平原・高本委員となる。
		10月 鉄道貨物協会より陸運貢献者表彰(5日)。
昭和33年(1958)	56歳	6月 日本生産性本部主催「流通技術国内視察団」編成、内山九万団長、伊沢道雄ほか16名、平原も参加。
		11月 『荷役と機械』11月号に「日本パレット・プールの提唱」掲載。
昭和34年(1959)	57歳	6月 荷役研究所創立10周年記念講習会を日通本社講堂で開催(25~27日)。26日夜「荷役とアジアの夕」開催。
		11月 日本能率協会主催「マーケティング・コスト・セミナー」東京・大阪で開催。平原講師として講義。翌年の第2回同セミナーで、Physical Distributionについてはじめて本格的に解説。
昭和35年(1960)	58歳	10月 平原・高本が協力した国鉄・梅田駅新3号ホーム竣工(3日)。
昭和36年(1961)	59歳	2月 南ベトナム(当時)・タイ・ビルマ・インド・シンガポール・マラヤ(マレーシア)・香港などの荷役事情視察(2~3月)。
		7月 日本能率協会に平原を中心に「流通技術委員会」発足(昭和40年まで)。のちに、検討成果が『PDの概念と現状』にまとめられた。
昭和37年(1962)	60歳	4月 神奈川大学専任講師。
昭和39年(1964)	62歳	3月 『荷役と機械』誌上に「再び日本パレット・プールを提唱する」を連載(3~12月)。
		4月 経済審議会専門委員となる。
		4月 日本パレット協会創立。平原が会長となる(8日)。
		6月 経済審議会・流通小分科会で、平原がレポート提出、質疑討論を行う(9日)。
		7月 通産省で平原のPD論、パレット・プール論が政策として取り上げられ19日に新聞報道される。
9月 アジア生産性機構等の招きで講演のため台湾訪問(9~10月)。		
昭和40年(1965)	63歳	1月 経済審議会答申に基づき『中期経済計画』(経済企画庁)で「物的流通」が取り上げられる。
		4月 流通経済大学講師。
		この年、産業構造審議会の流通部に物的流通小委員会設置、平原も委員となる。
昭和41年(1966)	64歳	11月 日本商工会議所にパレット・プール推進会議設置(委員長・永野重雄)、平原も委員となる(昭和45年3月30日まで)。
		年末(カ)、映画「荷役近代化への道ー現場人はいかに闘ったかー」完成。
昭和44年(1969)	67歳	9月 オーストラリアの運輸会社役員で豪州パレット・プールの総括者が来日、はじめて欧州型の交換方式のほかにレンタル方式があることを教えられる。
昭和46年(1971)	69歳	2月 中国生産力中心の招きで台湾訪問・講演。
		12月 日本パレットレンタル㈱創立。平原が会長となる(1日)。
昭和47年(1972)	70歳	5月 日本パレットプール㈱創立(13日)。社長・佐伯勇(当時の近鉄社長)、平原は取締役となる。
		9月 スイスのルツェルンで開催の世界パレット会議(2日~5日)に参加。
昭和48年(1973)	71歳	4月 パレットJIS規格化に尽くした功績により勲四等旭日小綬章を受ける。
昭和51年(1976)	74歳	11月 交通文化賞受賞(3日)。
昭和60年(1985)	83歳	2月 日本パレット協会の創立20周年記念式典で記念講演(20日)。
		10月 韓国パレットプール㈱創立式参加のため訪韓・講演。
昭和62年(1987)	85歳	6月 北京鉄鋼学院(現・北京科技大学)の招きで講演のため訪中(6~7月)。
平成元年(1989)	87歳	4月 東北工学院(現・東北大学)等の招きで講演のため訪中(4~5月)。
		5月 中国・東北工学院顧問。
		7月 台湾パレットレンタル会社設立記念講演会のため訪台。
平成5年(1993)	91歳	5月 中国・北京科技大学物流研究所名誉所長(6日)。
		6月 北京科技大学名誉教授。
平成6年(1994)	92歳	6月 北京科技大学の招きで講演のため訪中。
平成7年(1995)	93歳	10月 韓国パレットプール㈱創立10周年記念のため訪韓・講演。
平成9年(1997)	95歳	7月 「アジア善隣物流会議(仮)」実現のため、第1回アジア善隣物流懇談会を東京で開く(20日)。
平成12年(2000)	98歳	7月 『物流史談ー物流の歴史に学ぶ人間の知恵』刊行。
平成13年(2001)	99歳	11月 死去(22日)。